



## 指定討論

川地, 亜弥子

---

**(Citation)**

「小さな学校」研究:1-1

**(Issue Date)**

2019-04-20

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005910>



## 日本教育学会近畿地区例会 小さな学校研究

2019.4.20  
@神戸大学人間発達環境学研究所大会議室

### 指定討論

川地 亜弥子(神戸大学)

2019/4/20

1

## 大正から昭和戦前期

- ・地方公立小の文化としては「立派な学校」を歓迎
- ・生活綴方の始祖  
小砂丘忠義「山へ山へ」と転動する教師時代  
彼は山が好きだったが高知での教員後、  
池袋児童の村小学校へ
- ・「大正自由教育」(特に私立学校)は「小さな学校」  
教師が同志集団  
自治(学校の一切のことを教師と子どもで行う)  
小定員主義(1学級30人以内、単級) cf 80人  
都市の新中間層が支持

2019/4/20

2

## 東井義雄「村を育てる学力」

- ・立身出世主義を捨てて田舎の教師に
- ・ESDそのもの?  
受験学力への批判的まなざしと  
他者との連帯・地域重視 cf. 村を捨てる学力  
「生活の論理」を太らせる「教科の論理」
- ・地域との関係  
学校存続と地域の存続  
学校が地域をエンパワメントする

2019/4/20

3

## 教育制度の違いとそれを超えて 学び合えるところ

- ・(制度改革への示唆と、すぐに「生かせる」示唆)  
例えばイングランドの公立小(260人規模)の場合  
予算、教師・アシスタントティーチャー・ランチナニー等  
の雇用や配置、複式学級編成…  
校長含む学校のガバナーが決められる(大きな違い)
- ・今の日本でもできることはたくさんあるのでは  
現代の日本の公立小(特認・特区ではない)の事例  
(児童数170人)  
独自科目設置・教務主任兼専科担当  
大人と子どもの相互理解・尊重と自治

2019/4/20

4

## 効果・成果・課題をどう示すか (特に何を・どの程度)?

- ・効果・成果・課題をどう示すか(何を・どの程度)?  
これまではどう示されてきたか?  
学力/地域学習(土地に根ざした教育)  
コミュニケーション/リーダーシップ  
ICT  
教師の実感
- ・学校、地域を超えた組織の意義をどう語るか?  
「全国大会、あたらと不幸(義務感)?」
- ・“Small and Dynamic”

2019/4/20

5

## 例会のまとめにかえて

- ・韓国の教育福祉(エデュケア Educare) 学校とは能力を獲得する場である以上に福祉の場であり、大人も子どもがよりよく生活できる場所。重要な提起。
- ・「小さな学校」の可能性 公と私の間をつくりだせる、小中高の間をつなぎやすい。学校そのものの可能性でもあるが。
- ・学力と地域学習を2項対立にしないことは重要。ただし、国際調査(OECD-PISA等)、全国調査への対抗軸を打ち出す必要はあるのでは。
- ・子ども(在校生)や卒業生、大人(教師、保護者だけでなく地域住民も)のナラティブは有効なエビデンス
- ・異動がある学校は常に「よちよち歩き」で試行錯誤。だからこそ学校には相互尊重と自治が重要であり、それが実現しやすいのが「小さな学校」なのではないか。

6